

令和6年度 第3回四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日時 令和7年3月21日(金) 午後2時～午後3時30分
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 今村委員、岡田委員、加納委員、竹下委員、竹内委員、柘植委員、
福井委員、福永委員
図書館：堀田館長、川崎副館長兼奉仕係長、浅野管理係長
4. 欠席者 中井委員
5. 傍聴者 なし
6. 議事・報告事項
 - (1)令和7年度図書館事業方針(案)について 【資料1】
 - (2)令和7年度実施予定事業について 【資料2】
 - (3)その他(システム更新後の状況について) 【資料3】

(1)令和7年度図書館事業方針(案)について

事務局より、資料1をもとに①～⑥について説明

- ① 四日市市の公立図書館として必要な資料、今の利用者だけでなく将来の利用者から必要とされる資料を収集・保存し、それらの資料と利用者が出会える工夫に努めていく。
- ② 先月から IC タグを活用した自動貸出機・返却機の利用が始まり、利用者自身が簡単に手続きできるようになった。カウンターでの貸出業務が少なくなる分、司書は、レファレンスや読書相談、講座の開催など、人と本をつなげる業務に注力していく。また、子どもの読書に関わる人や、音訳・点訳に携わる人のための研修を引き続き実施し、図書館ボランティアの育成支援に取り組んでいく。
- ③ 引き続き児童室に担当司書が常駐できるようにすることで、図書館に来た子どもたちが安心して利用できる体制を維持する。また、学校への自動車文庫派遣や先生の勉強会に司書を派遣し、新刊絵本の紹介を行うなど、学校と連携して子どもと本をつなげるための取組や支援を行っていく。
- ④ 点字・録音資料は、専用のサイトに情報をあげることで、四日市だけでなく、全国の活字による読書が難しい人に利用してもらう機会があるものである。引き続き、資料の充実に努めるとともに、対面読書などサービスの周知を図る。また、電子図書館やLLブック、大活字本等も含め、読みづらい当事者だけでなく広く利用者に知ってもらうことで、図書館の障害者サービスの認知度を上げる。
- ⑤ 電子図書館は、小・中学生の閲覧が非常に多く、今後は、一般の方へのPRを進めていきたい。自動車文庫は、車両を1台、少し小型のものに更新することで、これまで停車できなかった場所も含めて巡回コースの見直しを行う。

- ⑥ スターアイランド跡地で検討した報告書のうち、新図書館に求める機能など、引き続き活用できるものは利用するが、日々、新しい図書館やシステム、サービスの情報は更新されていくので情報収集しアップデートしていく。また、現図書館も安全に利用していけるように、維持管理についても適切に行っていく。
- 以上のような内容で、令和7年度事業方針を考えている。

委員：自動貸出機も返却機も、すごく便利になったと感じた。円滑に運営できているのか。

事務局：オープンしてしばらくはシステムの委託業者が常駐しており、何かあればすぐ対応できるようにした。現在は職員・利用者ともに慣れてきて、円滑にできていると考えている。

委員：以前より静かで利用者が少なく感じた。館内がすっきりとした気もする。

事務局：入口のセキュリティゲートが以前より小型になり、間口も広がったため、通りやすくなっている。オープン初日の貸出・返却の数はこれまでにない多さで、自動貸出機の利用により回転があがった結果と考えている。また、カウンター前の混雑が緩和したことも、静かに感じられる一因かと思う。

委員：IC タグの貼付は、これからも増えていくのか。

事務局：蔵書全てに貼っていく。元々あった蔵書は業務委託で貼付し、今後図書館に入る蔵書は、購入する段階で装備されるものもあれば、図書館職員が装備するものもある。

委員：素晴らしいと思う反面、司書の対応がなくなることは寂しく感じる。司書が活躍している姿は利用者の目に見えるようにしてほしい。市民と司書が会話するなかで知ること多かったと思うので、大事にしてほしい。

事務局：承知している。利用者との対話は、レファレンスや読書案内の入り口なので大切にしていきたい。また、機械が苦手な人、小さな子を連れた人など、カウンターでの貸出・返却が必要な人は少なからずおり、排除することのないようにという意見は司書の中からも出ており、全員で共有している。

委員：機械化がすすむと人とのつながりが希薄になるのでは、という懸念が出てくるが、それにより余裕が出た分を、別の形で進めていただければと思う。

委員：高校生～20代ぐらいでは、人と話すのが苦手、という人も多い。今回のIC タグ導入はその世代が一番喜ぶのでは。図書館にあまり来ない世代だと思うので、そのあたりがうまく伝わり来館につながるとよい。④の障害者サービスのところで、資料を全国の利用者が使用できるとは、どういう仕組みか。

事務局：国立国会図書館やサピエという専用サイトに情報を上げることで、横断検索ができるようになり、全国で必要な資料が検索できる仕組みになっている。

委員：会話をせずに自分で手続きできるのが若い世代に喜ばれる、という意見はそのとおりだと思う。市立図書館が変わった、という情報を、例えば高校の図書館を介して広報できるとよいのではないか。また、子どもと本の距離感を感じている。電子図書館は小中学生の利用が中心なのか。小学校1年生から利用しているのか。

事務局：規則上は、小学校1年生の4月から使用できるが、学校にとって大切な時期であり、4月に説明されることはないと思う。一方で、貸出券をすでにもっている子は小学生になる前から使用しているし、親が電子図書館を利用して、絵本を読んだりというケースもある。電子図書館の利用は小中学生が多いため、読み放題パックという、同じ本を同時に何人もが利用できるものを充実させる方向で考えている。

委員：小学校1年にはタイピングの練習が必要なため、実際は、秋以降になるところが多いと思う。また、子どもと本の距離感を感じるというのは同意見である。家に本がないなど、家庭での読書の時間が減っている。学校ではボランティアに読み聞かせをしてもらったり、電子図書館や学校図書館があるが、家で読書する習慣はなく、根付いていかない。子どもたちへの啓発では限界があるので、家庭への啓発が必要だと感じる。

また、利用者にとっては、選択肢が増えることが喜ばれる。自動貸出機を使って自分で借りることができるのを喜ぶ人もいれば、会話を楽しみに来ている人もいると思うので、その選択肢をキープできるかが大切。今後、人手不足は必須なので、図書館がこういった形式で人とのつながりを目指していくのか、時代とともに考えていく必要がある。

委員：機械ではできないこと、機械だから我慢しているが本当はこうあってほしい、ということがあると思うので、そこで「人」が大事になってくると思う。また、図書館を利用する人にとっては当たり前のことでも、利用しない人にとっては、図書館は未知の世界である。利用しない人には情報が全く届いていない、と感ずることがある。

事務局：図書館は、ある時期は利用していても、子どもが大きくなるなどステージが変わると利用が遠のく施設だと感じる。現在、市の公式LINEや、図書館公式Xを使って図書館の情報を発信している。人の口コミが一番ではあるが、何かしらにひっかかってくれたらと思い、いろんな媒体でお知らせしている状況である。

委員：情報が必要とする人に届かない、というのは難しい課題である。

(2)令和7年度実施予定事業について

事務局より、資料2をもとに説明

・移動図書館車の更新について

令和6年度に更新した「かもめ号」は、従来と同じ規模の大きさだが、来年度に更新する「みなと号」は、従来のものより小型になる。そのため、本の積載冊数は減るが、駐車場所の選択肢が増えることから巡回コースの見直しを行う。車両を安全に停車し、地域住民が立ち入れる場所である必要があるため、高齢者施設の駐車場などを含め、地域バランスを調整しながら、より多くの人に本を届けられるように見直したい。また、自動車文庫や図書館のPRもかねて、車両デザイン画は公募予定。

・電子図書館について

閲覧回数は、「読む」ボタンを押した数だが、何人もが同時に同じ本を利用できる「読み

放題」の割合が大きい。1人ずつしか利用できない本の場合、利用が重なると読めるようになるまでに時間がかかるが、読み放題の場合は、読もうと思ったときにすぐ読めるという利点があり、利用の多くを占める理由である。また、電子書籍は、利用期間や貸出回数に制限があるものが多く、令和7年度は、電子図書館導入から2年経ち、利用できなくなるものが多く発生する予定である。これまでの利用状況と全体のバランスを見ながら選書を行い、規模を維持していく。

委員：みなと号が小型になり積載冊数が減る。どのように本を選択していくのか。

事務局：小さな図書館として走るので、全ての分野から本を選んで載せていく。特定の本を予約する人もいるが、「東野圭吾の本が読みたい」「お菓子作りの本が読みたい」など、ざっくりとした要望を元に、本を載せていくことが多い。少ないなりに、利用者の要望に応えられるラインナップにしていく。外側、内側にも書架があり、本は少なくはなるが、十分機能できると考えている。

委員：月に1回の巡回ということか。

事務局：そのとおりである。

委員：電子図書館について。障害を持っている人でも読める本、というのがあるのか。

事務局：コンテンツによっては読みあげ機能がついているものがあるので、機械的な音声ではあるが耳で聞いて読書することができる。また、一部、朗読や講演会など音声のみのコンテンツもある。障害の有無にかかわらず、何か作業をしながら耳で読書を楽しむ人もいと聞いている。

委員：電子図書館が小中学生の利用が多いと聞いたが、この先も広げていくという考えか。

事務局：もちろんそのつもりである。公立小中学生全員にIDを付与しているので、どうしても小中学生の利用が多い。一般の方に向けて、引き続き、電子図書館のPRをしていきたい。また、学校の先生にもIDを付与しているので、児童生徒が読んでいる本をぜひ読んでほしいと思っている。

委員：例えば、自動車文庫に来たものの読みたい本がなかった場合に、電子図書館の案内を意識して行いPRしていくのはどうか。貸出券をすでに持っていて電子図書館も利用できる、という人から利用を広めていく、というのも一つの方法である。

事務局：紙と電子で同じ本をもっている場合もあり、意識して、「この雑誌は電子でも読める」「このおすすめ本は、紙も電子もある」などしている。

委員：コンテンツの利用期間が2年のものが、令和7年度で使用できなくなる、という話があったが、同じように選書をするのか。

事務局：多くの方に借りられた結果、もう利用できなくなったコンテンツがすでになんとかあり、それらは同じものを買يناおしている。一方で、今回のように、利用回数にかかわらず2年で利用できなくなるものについては、そのまま買يناおのではなく、全体のバランスと利用頻度を見ながら、選書をしていく予定である。

委員：利用者からのリクエストは受け付けしているのか

事務局：図書館用に販売されているコンテンツを利用の方が知ることが難しいので、具体的な書名のリクエストとしては受け付けしていない。「こんな分野の本があるといいのに」というカウンターでの会話や、館内にある「声のポスト」からご意見があれば共有し、選書の際の参考にしている。また、2万コンテンツの中から読みたい本と出会うことが難しいので、トップ画面をこまめに更新していろんな本を目にとまるようにし、今すぐに読める本をどんどん紹介している。

3. その他(システム更新後の状況について)

事務局より資料3をもとに説明

館内チラシや掲示、ホームページ、公式 X、広報よっかいち等でお知らせし、地元情報誌からも、自動返却ポストの取材を受けたところである。

自動貸出機・返却機の導入により、司書の接客が減る心配をいただいたが、対面での接客が必要な場面は多々ある。カウンターの混雑が緩和された分、その接客がしっかりとできていると考えている。また、現図書館で IC タグを導入できたことにより、利用者だけでなく職員も機器に慣れ、利用者動線や必要なことが具体的に把握できたため、新図書館での混乱を少なくできると考える。

委員：Web 書棚について。リアルな本棚には負けると思うが自分が探している本の近くにどんな本があるのかを見ることができるのはいい機能だと思う。ピンポイントで特定の本を探すだけでなく、おもしろそうな本に思いがけず出会えるのは、書店や図書館ならではの、それに近い。利用者のなかには会話をしたくない、でも知りたい、という人もいるので、検索だけではたどり着けない本、思いがけない本に出会えることはすごくよい。

委員：図書館の児童室で、小さな子どもを連れた親がいたが、子どもがぐずりだしたときにすぐにやさしく声をかけている司書の姿を見た。機械の導入により司書とのふれあいが減りさみしいと感じたが、そういった姿を見て安心できた。

委員：自動返却ポストが便利になったのはよいが、返却確認作業が必要で、職員の作業量が減っていないのが残念。司書がいろいろ動けることによってこそ四日市の図書館のよさをまだまだ出せると思うので、今後も、より司書がよい動きができるようにされたい。

委員：(新図書館の候補地を調査するための予算を政策推進課で計上したものの、予算委員会では認められなかった、という結果を踏まえ)新図書館について、また一から、となってしまった場合、これまでにいろいろな意見を伺ったり、みんなで考えたりしたことを思うととても残念である。

事務局：今までに市民団体や学校などからも含めていろんな意見をいただいた。新図書館に必要なものや、例えば20時まで開館するには職員が何人程度必要か、など仮の参考

値ではあるが、検討報告書に出してあり活かせるものは活かしていく。四日市市は、公共施設の数を減らし、将来的な負担を減らすことを目指している。図書館単体で建てるのではなく、何かとの複合施設を建てることで、維持管理が省力化される。どのような分野と複合になるのか未定だが、今利用している利用者だけでなく、まだ利用していない新たな人にも利用してもらえるにはどうしたらよいか考えていきたい。

委員：今までのことを反映させていかないと、これまでの努力が無駄になる。

委員：長く積み上げてきたものがある。新図書館が遅れていくのであれば、現図書館で取り入れられることを取り入れていくことも必要ではないか。たくさん意見を集めてきて、把握していると思うので、即座に応えられる要望は考えてほしい。また、早く建ててほしいというのは、市民みなさんが思っているのではないか、と思うので、図書館協議会で提言できることがあれば、出していきたいとも思う。

委員：必要であればこういったところで議論していくことになろうかと思う。これまでいろんなところでの議論、市民からの意見を集約されたものは新図書館に反映されると思うし、それでは不十分な部分については、また議論がなされるかと思う。これまでのものが全く無駄になるとは思っていない。信じている。

委員：利便性が高まっている感じを受けた。新図書館に向けて、現図書館の利便性も高めて、利用者を増やしていただければと思う。

事務局：前回の協議会でご説明した、まちじゅう子ども図書館について、追加で報告したい。議会(教育民生常任委員会)で話をしたところ、この事業自体の理念はすばらしいものなのでもったいないという意見をたくさんいただいた。一方で、各まちじゅうこども図書館から回収したアンケート結果からは、本を出していなかったり、店の利用者しか利用できなかったりと、もともとの「本のあるまち」の概念から離れてきてしまっている。機能していない店舗もたくさんあるのが現状である。

図書館としては、より多くの人に利用してもらうにはどうしたらいいか、図書館に来れない人に利用してもらうにはどうしたらいいかを考え、自動車文庫や電子図書館といった業務を主流とし、図書館に来なくても読書ができる方法、来れないところには図書館から行く方法などを考えている。まちじゅう子ども図書館は、依頼した後は、各店舗にたよるところが大きい。どういう方向であればいいのか、本来図書館が手を出すべきサービスはどこなのか、ということをもう一度検討し、夏ごろを目途に方向性を決めていきたい。